

■著者紹介

坪郷 實 (つぼごう みのる)

1948年 生まれ
1978年 大阪市立大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学
1991年 博士(法学) 大阪市立大学
北九州大学法学部教授を経て、
現 在 早稲田大学社会科学総合学院教授

主 著

『新しい社会運動と緑の党——福祉国家のゆらぎの中で』九州大学出版会、1989年
『統一ドイツのゆくえ』1991年、岩波書店
『ドイツの市民自治体——市民社会を強くする方法』生活社、2007年
『環境政策の政治学——ドイツと日本』早稲田大学出版部、2009年
『脱原発とエネルギー政策の転換——ドイツの事例から』明石書店、2013年
共著『市民自立の政治戦略——これからの日本をどう考えるか』(山口定、宝田善、進藤栄一、住澤博紀編) 朝日新聞社、1992年
共著『2025年 日本の構想』(山口定、神野直彦編) 岩波書店、2000年
編著『新しい公共空間をつくる——市民活動の営みから』日本評論社、2003年
編著『参加ガバナンス——社会と組織の運営革新』日本評論社、2006年
共編著『市民が描く社会像——政策リスト37』(石毛鏡子、須田春海と共編) 生活社、2009年
編著『比較・政治参加』ミネルヴァ書房、2009年
編著『ソーシャル・キャピタル』ミネルヴァ書房、2015年
共著『リアル・デモクラシー——ポスト「日本型利益政治」の構想』(宮本太郎、山口二郎編) 岩波書店、2016年

他多数